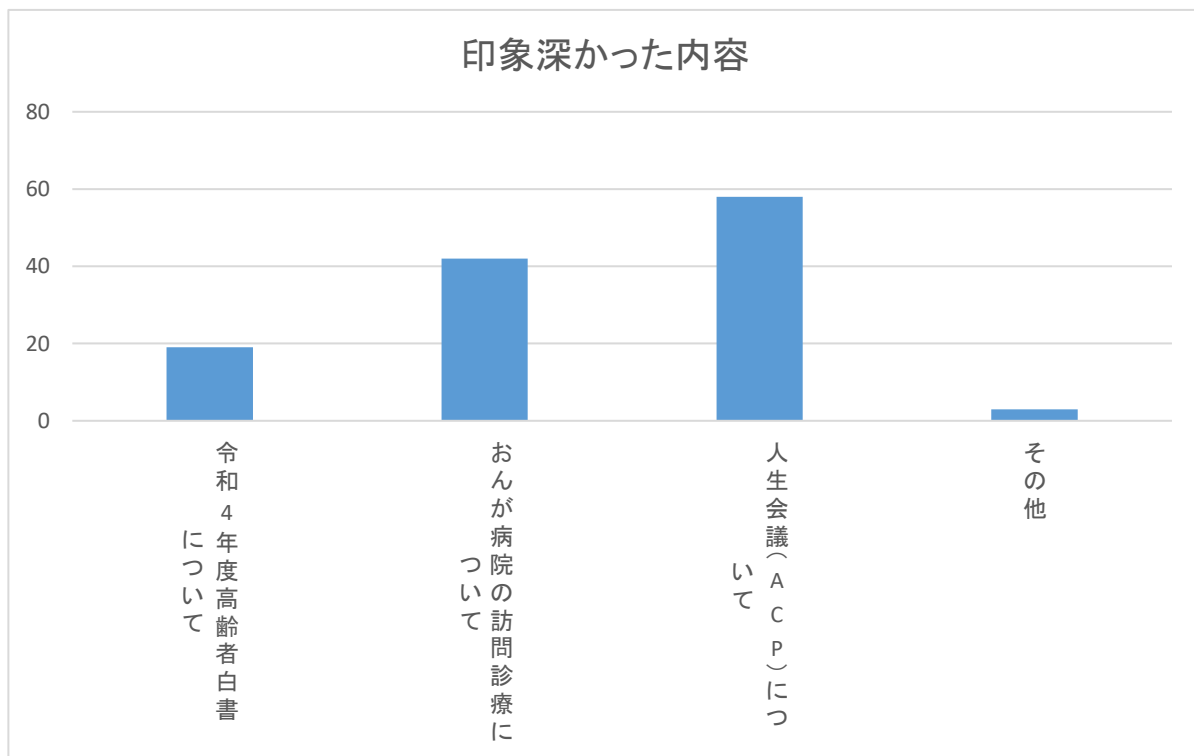
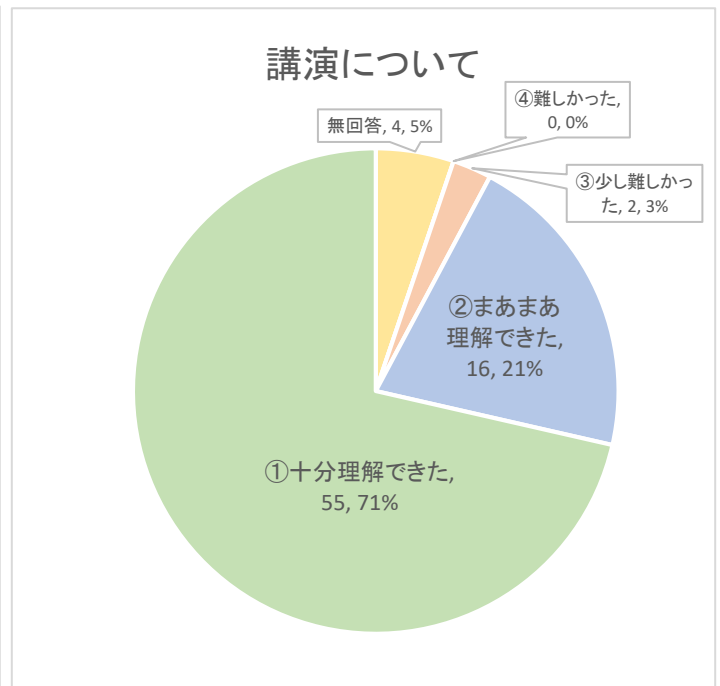


その他職種・医療事務
・施設相談員
・支援相談員



その他・訪問診療での患者さんの笑顔
・最後に流れた写真の笑顔の方々

講演を聞いた感想・意見

- ・訪問診療の写真がとても印象深かったです。
 - ・末廣先生と訪問診療の皆さんが、訪問診療で700件/月を越える患者さんに毎日いろどりをそろえられている事がわかりました。ほぼ在宅、時々入院を支えられるように病棟看護もがんばりたいと思いました。
 - ・末廣先生のお話し、とても参考になりました。
 - ・勉強になりました。
 - ・高齢の両親と同居している為、あらためてACPの大切さを気付くことが出来ました。また、いかに”生きがい”を見い出せるか、自分も家族も考えていきたいと思います。
 - ・今年度初めて在宅を担当するようになり、初めて聞くワードや相談内容などに戸惑いながら取り組んでいます。末廣Drのお話しはとても分かりやすく、日々先生がPtさん達と真摯に向き合われているんだなと思いました。多くの方が自身に合ったサービスを十分に受けられるような仕組み作り、お手伝いをできるように私も精進したいと思いました。
 - ・末廣先生とツーショットの写真の中に、長い間見回りしている人がいらっやいました。家族からも見放された方でしたが、ケアマネさんと話し合いをし、ケアマネさんの指導を受けながら見回り訪問続けました。最高の笑顔の写真でした。ケアマネさんも私の見回り訪問のおかげで病院で最期をむかえられたと言ってくださいました。
 - ・笑顔が大切だと改めて感じました。
 - ・人生によりそう診療、最高です。
 - ・声が聞き取りづらかった。
 - ・訪問看護に取り組む先生方の姿に感動しました。家での看取りは理想的ですが、家族が対応できるか心配です。
 - ・たくさん写真を見て自分も笑顔で最後を迎えたいと思いました。
 - ・内容は帰宅して書類で確認したいです。
 - ・高齢社会における医療のあり方、変化がわかり易かった。
 - ・末廣先生のお話しがとても、これからの高齢者の方の訪問の時に皆様方に少しでもお話しが出来るように思いました。
 - ・先生、いつも医療連携して下さりありがとうございます。ケアマネジャーとして、ご利用者やその家族の「どのように暮らしたいか」、「どのように自宅で死を迎えたいか」など、しっかりと意向を聞き取り、実現していけるよう、チームの一員として支えていきたいと思えます。
 - ・みなさんの笑顔がとても良かったです。
 - ・老人の多くが「漠然とした不安」を抱えています。今日のお話しを次のサロン活動で話をしたいと考えています。
- 又、遠賀町の「出前講座」に設けられていますので、お願いしたいと思います。
- ・ちょっと早口でしたので、よく聞き取れないところがありました。
 - ・いかに生きるか、いかに最期を迎えるか、改めて難しいなと感じました。普段から家族や周りの人達と話し合うことが(あまり楽しい話題ではなくても)大切ですね。

講演を聞いた感想・意見

- ・私は訪問Nsを目指しているのですが、今日の講演は大変興味深くとても考えさせられました。そしてやっぱり訪問Nsになりたいという思いが強くなりました。「どう生きるか」を患者さんやご家族と一緒に考えていける看護師でありたいと思いました。
- ・ACP:きちんと書面に残しておくことは大切だと感じます。自分の時は残しておこうと思います。
- ・普段のかかわりの中で、生き様、想いを聞き取る機会が多いので、最期はどう迎えたいかを含めて聞くことができる関係性づくり、プランづくりをしていきたい。
- ・ACPのお話しがとても参考になりました。
- ・これまで人生の末期の事など実感していませんでしたが、在宅医療の事など考えさせられました。どう生きたかが大切とのことばが心に残りました。
- ・おんが病院の訪問診療初めて知りました。近くに住む者にとって本当に安心できます。患者さん、末廣先生、スタッフの方々の笑顔、素敵でした。
- ・先生のお話は二度目ですが、聞くたびに奥深くわかっていく自分がいます。
- ・私は看護師として病院で勤務していますが、やはり自分の親は自宅で最後を迎えさせたいと思います。その時は先生にお世話になります。
- ・訪問診療のことは全く知らなかったのですが、地域密着の素晴らしい活動だと感じた。
- ・今年度4月より在宅部門の配属になり、日々制度等勉強しているところでした。本日の講演も、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・看取りの話をいつかもっと聞きたいです。
- ・大変興味深いお話しでした。私77才、今日のお話しを聞き、少し自分の事を考えたいと思いました。
- ・訪問診療と言葉でいうほど簡単ではないと思うし、多くは見れないと思うので、ご苦労されるだろうと感じた。
- ・最期を過ごしたい居場所、ご本人とご家族での気持ちの違いはあるが、ご本人のお気持ちに寄り添う訪問診療について、実際の取り組みの様子を見させて頂き感動しました。そして、ご本人の気持ちを大切にすることも、人生会議は重要だと感じました。「どう生きたか」…自分の中でも大切にしたいと思います。
- ・初めて聞きました。人生の最後ということを考えるきっかけになりました。何も考えず毎日自分の仕事に精を出していました。
- ・ACPをどういった経緯で開催するのですか？認知症の人を交えた会議で認知症の意思をどう確認すればいいの？
- ・現在看取りを行っていませんが、施設での看取りの重要性、必要とされている事が(求められる)良く理解できました。職員の人員配置や1人1人の能力を考えると、自身の勉強不足もありまだ難しい問題がありますが、今後取り組みたいと思いました。
- ・その人らしく、その人を尊重し、看護していきたいと思いました。患者さんの家族のケアもしっかり行っていきたいです。

講演を聞いた感想・意見

- ・どれだけ生きたかではなくどう生きたかが重要、その通りだと思いますが、その過程を同じ想いで過ごす事が難しいと感じる事もあります。ご本人、ご家族の想いに共感する事が大切と感じます。
- ・末廣先生のような在宅診療の先生が居てくださるので、私達もとても助かっています。これからもよろしくお願いします。
- ・その人らしくどのような最期をむかえるか、自分、親、子、友人等とおきかえて初めて考えました。先生とご利用者様、家族が笑顔で写る写真を見て、とても感動しました。そうあってほしい、そうありたいと。現在、終末期の方と関わることはありませんが、現在関わっているご利用者様に寄り添い、笑顔が少しでも増えるような支援をしたいと思います。
- ・最後に先生が”訪問診療する理由は笑顔を見るために”と話された言葉が、今悩んでいる訪問看護にも通じることがあり救われました。先生と患者さんの笑顔の写真が凄く印象的でした。
- ・看取りについて、色々な取組みの現場を知ることができた。他人事ではないので、最新情報はぜひ知りたい。
- ・講演の方は時間がなくて、先生の話しもわかるんですが、少し早口だったので少し難しかった。
- ・今後在宅医療の重要性について、考えさせられました。増えることを希望します。
- ・健康寿命につながるには、人との繋がり、生きがいの大切を学ぶことができました。そのような場を創り上げる民生委員として頑張っていきたいと思いました。
- ・とても参考になりました。
- ・とても参考になりました。これから高齢者が多くなり、訪問診療がいかに大事かを聞かされました。
- ・ACPIは大切な事と思う。利用者様に関わっていく中で、何度も話し合いを行い、自分もご家族もどうしたいか決める事は大切だと思う。
- ・たくさんの資料を使い丁寧に説明いただき、わかりやすかったです。すてきな笑顔をたくさん見せていただきました。ありがとうございました。
- ・患者さんと家族の関係が参考になった。
- ・ACPIについて知識がなかったので、家族に日頃から話して、終活ノートに記録しておく事を改めて学んだ。
- ・実例を入れての話をもっと聞きたかった。
- ・病院以外の所でできる限りご本人様の希望にそえる場所で、最期を迎える事ができる事の大変さを感じるとともに、最後の写真スライドのみなさんの笑顔で、先生方への信頼をとっても感じました。デイサービスでも直接看取るという事はありますが、その前段階である在宅看取りの手助けとなれるようなケアを行っていきたいと思っています。
- ・役に立ったと思います。死因の原因で老衰が増えていることは知らなかったです。
- ・重いタイトルで参加することに勇気がいりました。お話を聞くことで元気や勇気をいただきました。
- ・住宅型施設の利用者様ですが、終末期は居室でと皆の意見が一致していた時、末廣先生の助言で前日までデイ利用され、ご本人、ご家族様がとても満足されていた。色々な看取りの方法があり、ACPの大切さを実感した。
- ・尊厳死(意向)について一度、本人と話しをしたいと感じました。(自分の家族のことですが…)

講演を聞いた感想・意見

- ・介護が必要になる原因が認知症が多いとあったが、認知症になる症状により、病院や施設の受入拒否などがあり、そのような人は今後増えていくと思うので、どのように医療や介護につなげられるよう支援できるのか、関係者、機関とで話し合いたい。
- ・非常に考えさせられる内容でした。良かったです。
- ・末廣先生ありがとうございました。

映画「みとりし」についての感想

- ・みとりしという仕事を初めて知りました。
- ・色々な立場にたってみることができました。看護師としてではなく、家族として身近な人として一人の最期を看取る上で、ACPは大切だと思いました。そして死は特別なことではなく自然なこと。
- ・自分の人生の最後を思い浮かべました。身近な人、家族にはやさしくやさしく！
- ・施設での看取りについて、寄り添ったケアをしたいと思いました。
- ・とても感動しました。
- ・色々な”看取り”があると思いますが、本人の望む最期を迎えられるように支援していければと感じました。
- ・病気を治すのではなく、向き合うことの意味を改めて考えさせられました。
- ・すばらしく思いました。
- ・最期の寄り添いと命のバトンを渡す瞬間が感動しました。今の気持ちをいつまでも忘れないで、みんなも一緒に気持ちになってほしいです。
- ・死は生活の一部です。やさしくやさしくやさしく…印象的でした。
- ・みとりしという言葉を今日初めて聞きました。難しい仕事だなと思いました。
- ・涙なくして見れませんでした。いくつも看取りがあり、そこに温かいみとりしがいる。自分の身におこるといいなと思いました。”死は生活の一部”最後の言葉が心に残りました。
- ・とてもよかったです。ありがとうございました。母の亡くなったときのことを思い出してしまいました。
- ・感動でした。みとりしについてはより知れた。
- ・「みとられる」年齢を過ぎています。残された時間をいかに過ごすか考えさせられます。
- ・人間として最後をどのように迎えるか考えさせられる映画で、とても感動いたしました。ありがとうございます。
- ・最後の迎え方について、家族とまた話し合いたいと思います。
- ・死に直面した時、少しでも自分なりに納得できて、心穏やかに過ごす事ができたらと思います。命を長引かせる事ではなく、やはり、その人にとって、どうありたいかが大切だと痛感させられました。

映画「みとりし」についての感想

- ・みとりしという方達がいることを初めて知りました。みとりしの方に心の支えになっていただいで見守られながら死を迎えると良いなと思いました。
- ・「みとりし」を初めて知りました。死を「まほうつかいになる」。心に残りました。
- ・「みとり」人の最期をあのようによさしくできたら最高と思いました。
- ・ただただ心にしみる映画でした。
- ・人それぞれの想い、考えがあり、10人いれば10通り、状況が変われば10人で100通りの選択があるのだと感じました。皆の意見や状態を客観的に見て対応し、まとめていけるキーパーソン(身内でなくても)が必要だと感じました。
- ・父も母も病院で亡くなりましたが、家で看取られたら良かったなど今更ながら思いました。看取りの場面では、誰もが安心して自分の気持ちをさらけ出せる環境、場が必要だと思いました。
- ・「よりそう」という事の意味を改めて考えるきっかけをいただきました。他によりそうことそして自分自身よりそうこと。
- ・「レットイットビー」が良かったです。
- ・とても勉強になりました。感動しました。ありがとうございました。人として大切な事を教えてもらいました。みとりしさんのようにやさしくまわりの方に接していきたいです。
- ・いろいろな場面で涙が出て、あっという間に2時間が過ぎました。
- ・すごい映画ありがとうございます。見ることができよかったです。心の奥に残ります。
- ・人によって最善の方法が違って、本人や家族の方々としっかり話をして、何が本当にその方のためになるのかをしっかりと考えてあげることが大切だとあらためて思いました。
- ・「みとりし」という方がいらっしゃるとは知りませんでした。とても大変だとは思いますが、これからますます必要になると思います。
- ・「みとりし」さんに寄り添ってもらえて死ぬのは幸せですね。死について考えさせられる映画でした。
- ・緩和ケア病棟でのリハビリを担当する事もあり、気持ちに共感する部分もありました。今回、この映画を初めて知りましたが、観てよかったです。
- ・親と今からの人生や最期どのように生きていきたいのか話してみたいと思います。少しでも親が望んだ人生であるように、又それを子供達にも見せていけたらと思いました。
- ・めっちゃ泣いた。
- ・看取りし会を初めて知りました。
- ・涙なしで見られました。いつか自分も訪れるかと思ってしまいます。
- ・とても感動しました。最後利用者様が愛されていたと感じていただけるような支援に立ち合えるようになりたいです。
- ・”みとりし”という存在を初めて知りました。大変、素晴らしく切なくもありましたが、心温まる映画を観させて頂きました。日々、仕事に携わる中で、その場しか見えていない時が多くありますが、最期は日々の延長線上にあると実感しました。ありがとうございました。

映画「みとりし」についての感想

- ・映画の様にいけたらいい。自分の最後を考える。
- ・みとりしの資格は？(資格の要る職業?)みとりしとヘルパーはどう協力する?やさしい気持ちにならなければいけない、受けいれるのみと心する映画でした。
- ・とても感動しました。母の事、家族の事、大切な人達を想いながら、観させていただきました。”やさしくやさしくやさしく”ありがとうございます。忘れません。
- ・良い作品でした。
- ・「みとりし」という仕事があると初めて知りました。在宅、看取りに言えることは、どの職種であろうと可能な限り寄り添うということと思いました。
- ・「みとりし」という仕事があると初めて知りました。精神的に大変な仕事だと思います。
- ・死について残される物(人)、残す物(人)、その後の想い。とても考えさせられました。”みとりし”とても興味があります。
- ・在宅で最期を迎える意味、考えさせられます。
- ・くらい…。でも人がフタをしてることがテーマでよかった。
- ・みとりしという言葉いいですね。内容はとても良かったです。ありがとうございました。
- ・とてもいい関わり方に感動しました。死と向き合う事、最後の瞬間を大切に接することがよくわかりました。
- ・人生の総決算ともいえる臨終時の大切さを「みとり」を通して考え深いものがありました。
- ・みとりし、何となく寂しい言葉ですね。このような理想的なことができればいいのですが、まだまだ現実的ではないような気がします。長寿良いような悪いような。
- ・みとりしの仕事がいかに大変なのか実感出来た。みとりしはそこまでしなければならないのか?
- ・在宅生活での本人のADLを考え、訪問Nsやヘルパー支援外でこの様な型が有ることを知れて良かったです。
- ・介護保険サービスでどこまで最後まで寄り添えるか考えさせられました。
- ・みとりし職業があつたのですね。やさしく包むように接してくれて、家族としてはとても安心ですね。訪問看護、ケアマネも同じようになりたいです。
- ・みとりしについてもっと知りたいと思った。
- ・患者というより人としての尊厳が大切であることが良く理解できた。
- ・大変な仕事がある事を知りました。死んで行く時の心のささえがある事、家人を大切にしていこうと改めて感じました。
- ・看取りを自分も希望したい。家族とこの問題について話したい。
- ・みとりしという職業を知りませんでした。医療従事者と連携しながら、自宅で最後を迎えられるお手伝いをされている、とても大変だと思いますが、在宅医療に必要な役割だと思います。
- ・これからの社会に必要な職業だと思います。
- ・すごくやりがいのある仕事に感動しますが、働き方改革が叫ばれる時代、もっともっと確立できたらと思います。

映画「みとりし」についての感想

- ・地域でこのようなシステムが構築できたら良いなと思う。訪問医や介護する側の人も不足している。現状ではきびしいかもしれない、でも未来に希望をもちたいし、自分が役に立てるようになりたい。
- ・本人の意志を尊重して、周囲の感情を押しつけないことが大事と思った。そのためには周囲の人が嫌だと思っても、本人の意志を日頃から聞いておくべきだと思った。
- ・非常に考えさせられる内容でした。良かったです。
- ・希望の場所で最期をすごせる事は、本人にとっても家族にとっても良いことであると思っています。

在宅総合支援センターへの要望など

- ・研修に参加させて頂きありがとうございました。今後の仕事に役立てていきたいです。
- ・今後ともよろしく願います。今日はありがとうございました。
- ・遠賀中間地域で在宅訪問医療を行っている病院名を知りたい。
- ・地域でもこのような機会があれば、このような看取りについてお話しいたきたいです。
- ・このような研修会は広く町民に届いて頂きたいと考えます。
- ・「みとりし」のような団体があるといいですね。
- ・講演会も映画も参加して良かったです。ありがとうございました。
- ・参加して良かったです。ありがとうございました。
- ・在宅で見ただけの事はありがたい事だと思います。民生で回っていると気づく事があれば連絡する所がわかりました。
- ・支援センターについて詳しく知りたい。
- ・今日はありがとうございました。
- ・ACPを地域に普及していく方法等、独居の方の在宅をどう支えられるか？
- ・この様な研修は、もっとPRして欲しい。町のおたよりはこないし、テレビやラジオでPRをお願いします。
- ・この制度についてもっと皆様に知ってほしい。
- ・特にありませんが、研修していきたいと思います。
- ・ステキな研修をありがとうございました。
- ・認知症疑いの高齢者は多くなっているように感じる。地域からの相談などにより、医療や介護につないでいなくても、本人が病気と思っていないことから、専門医の受診などもなく、悪化した状態で各関係機関が関わるようになることが増えている。そのため、各関係者が異変を感じたときに、周囲から本人へのアプローチ(内科を受診している病院→本人やデイ職員→本人へなど)で、受診を促していけばいいと思うので、認知症に関する研修を希望します。